

# 大腸CT検査（CTC）の流れ 及び 注意事項

CTはX線を利用して行う画像診断です。

大腸CT検査（CTC）は前日にバリウムを服用していただき、肛門からカテーテルを挿入し大腸をガスで膨らませて撮影を行います。

医師の判断により検査を行えない場合もありますので、以下の注意事項を必ずご確認ください。

## 次に該当する方は検査をお受けできません

妊娠、または妊娠の可能性がある方

消化管疾患、腸管穿孔、腸閉塞の方

腹部の手術（婦人科系を含む）後、または内視鏡治療（ポリペグ、EMR等）後、3か月を経過していない方

バリウムアレルギーの既往がある方

腎臓人工透析中、または腎疾患既往をお持ちの方

## 次に該当する方は必ず事前にお知らせください

心臓ペースメーカーや体内除細動器等を使用されている方、その他金属類を体内に埋め込みを行っている方

## 大腸CT検査を受けるにあたって

検査日の前々日より検査当日に向け準備を行っていただきます

検査前々日（2日前）・・・夕食後に緩下剤を服用していただきます

検査前日（1日前）・・・**朝昼夕の食事は当院で用意したものを摂っていただき**、夕食後は**腸管洗浄剤**を服用します

検査当日（0日前）・・・朝は水分を摂り、予約時間の30分前までに受付を済ませてください

## 服用中のお薬について

服用薬についてはかかりつけ医に相談の上服用してください

## 検査を受ける前に

金属・プラスチック等は検査の妨げになる場合がありますので、専用の検査着に着替えます

## 検査開始・検査中

検査時間は約10～15分程度です

撮影は息止めしながら行い、2～3体位の撮影を行います

検査中はスタッフ2名が付き添い、サポートします

## 検査終了後

食事はとって頂いて構いません。普段通りの生活をお送りください。ただし、個人差がありますが前処置における下剤の服用により下痢が続く場合がありますので、過度の運動や遠方へのご旅行などはお控えください

## 検査結果

結果は検査後2週間でお伝え出来ます。診察予約をご確認のうえご来院ください

## 検査の副作用について

合併症として腸管穿孔や迷走神経反射などが報告されていますが、その頻度は非常に低く安全性の高い検査です。

大腸CTにおける穿孔の頻度 0.06～0.1%程度

迷走神経反射の発生頻度 0.1～0.16%

当クリニックでは、穿孔を防ぐために大腸CT用の柔らかいカテーテルを使用しています。また、穿孔が発生する頻度は手動注入での穿孔が全体の85%を占めていますが、当クリニックでは自動送気装置を用いて設定圧を超えないようモニタリングを行っているため、より安全に検査を行うことができます。もし、検査中や検査後に腹痛、嘔気、冷や汗、めまいなど変わりがあれば、スタッフに遠慮なく相談してください。



一番町健診クリニック  
ICHIBANCHO MEDICAL CHECKUP CLINIC